

小林速男先生退職記念事業

小林速男先生が平成19年3月をもって分子科学研究所を退職されました。小林先生は平成7年より分子科学研究所分子集団研究系分子集団動力学研究部門の教授を担当され、この間有機伝導体の研究分野で世界を先導する研究を展開されました。これらの業績に対して平成9年に日本化学会学術賞、平成18年に日本化学会賞を受賞されています。定年退職に当たって、研究所では平成19年3月12日午後より岡崎コンファレンスセンター大会議室において退職記念の事業を行いました。記念事業として、

森健彦先生による「分子性導体の電子状態から何が分かるか」と福山秀敏先生による「分子系の物性物理」と題する記念講演につづいて小林速男先生による最終講義「分子と金属」が行われました。小林先生をはじめ、森先生、福山先生は有機伝導体の勃興期よりこの分野の牽引役を果たしてこられた第一人者で、それぞれの講演は有機伝導

体の歴史を振り返り、今後の的確な方向を指し示す内容でした。

夕刻、岡崎コンファレンスセンター中会議室において祝賀会が開催され、



研究所内・所外合わせて約100名が出席しました。祝賀会では中村宏樹所長の挨拶に続いて福山秀敏先生の挨拶と乾杯で始まりました。続いて弦楽四重奏の演奏が流れる中、十倉好紀先生、徳本圓先生、榎敏明先生による挨拶が行われました。さらに、小林先生が代表を務められた特定領域研究「磁性分子導体」の事務局を務められた井上克也

先生、小林速男先生のお弟子さんの藤原秀紀氏と田中寿氏による挨拶で締めくくりました。また、以前分子研の外国人評議員をつとめていた英国王立研究所のPeter Day教授からのお祝いの電子メールも披露されました。極めて和やかな雰囲気の中で、時に研究室の裏話も披露されて爆笑を誘うなど、小林速男先生のお人柄がよくあらわれた祝賀会でした。

研究所の記念事業に先立って、有機伝導体の研究分野の有志より分子研研究会が3月11日から12日の午前にかけて開催されましたので、この研究会についてもご紹介します。小林先生と共同で研究を展開し、この分野を代表する17名の先生方が講演し、この分野の現状と将来について真剣な議論を戦わせました。また、Dr. Lahcène Ouahab (University of Rennes - CNRS) と Prof. James Brooks (Physics Department/NHMFL, Florida State University) による特別講演も行われました。両氏とも小林速男先生との共同研究を長年続けられた方です。この間、小林速男先生と特に親しかったProf. Patrick Cassoux (University of Toulouse - CNRS) による映像による挨拶も披露されました。

研究会、記念講演会、祝賀会と恙無く終えることができましたが、これらの会に参加しご協力いただいた皆様に対して心より感謝の意を表したいと思います。最後にこの記念事業のために様々なご支援をいただいた分子研の皆様にご挨拶申し上げます。

研究会、記念講演会、祝賀会と恙無く終えることができましたが、これらの会に参加しご協力いただいた皆様に対して心より感謝の意を表したいと思います。最後にこの記念事業のために様々なご支援をいただいた分子研の皆様にご挨拶申し上げます。

(薬師久弥 記)

